

# 令和7年度 園評価書

園番号 39

園名 小島こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
「心豊かなたくましい小島の子」	自分の「好き」「おもしろい」を見つけよう！	自分の好きな遊びを楽しむ中で面白さを見つけ、試したり工夫したりしてじっくり遊ぶ	まだ大人との関わりを必要としている子ども達なので保育者との関わりを大事にしていた。環境作りは子どもの興味をもとに、面白さがもっと大きく膨らんでいけるよう保育者が用意しながら、遊びの様子を見て「出す・引く」を意識していった。保育者の思いと違う形での遊びとなることもあったが、一つのものから子ども同士のイメージで楽しむ姿もあり、自分達で考えた遊びの「楽しい」は「もっと」や「じっくり」につながっていくと感じる	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分達が使いたいように使うことができる環境がある</li> <li>安心して過ごすことができる物的環境、居場所、子ども達を支える人的環境が整っている</li> <li>子ども達に夢になれるものがある</li> <li>子どもを主役に、子どもの表れに合わせて「出す・引く」を意識している</li> </ul>	自分なりの「たのしい」「おもしろい」はそれぞれあり、一人や友達と楽しむ姿が見られる。それぞれの発達に合った「たのしい」を考えていながら、もっとおもしろく、深く遊びが続くような工夫を子ども達の姿から保育者が考えていくことが必要となる。朝の遊び出し、環境を変えるタイミング、明日はもっと！と思える振り返りの工夫を職員間で学び合い、環境づくりや保育に生かしていく
		自分の思いや感じたことを言葉で表現したり、友達の言葉や話を聞いたりする	自分の思いや言いたいことを口に出して言える子、考えや思いがあってもみんなの前ではなかなか言えない子もいる。思いを言えない子には個別に思いを聞くことからやっていた。みんなの前で言えた時は、その姿を認め周りに子にもその子の良さを気づかせていくような関わりを心掛けていった。自分と違う思いを知り、そこから友達の良いさを認めるという姿になってほしい	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の思いを言葉で伝える」は小学校の課題でもある</li> <li>年中でどの部分まで求めるのか…</li> <li>保育教諭は良さを認め、価値づけをしている</li> <li>「良さを見取り、価値づけ、子どもに返す(伝える)」、この積み重ねは子どもの自信にきつとつながるはず</li> </ul>	相手の話を最後まで聞いたり、友達の思いを知っていくことで、自分以外の人の存在が好きになったり、認めていったりする姿につながっていく。少ない人数のため、子どもの話を大人が聞き入れることはできる。自分をうまく表現できない子には、大人が思いを汲み取り代弁していく。褒めることや認めるということを、保育者が行っていく
		様々な人に親しみをもちながら挨拶をしたり、自分から身の回りのことや片付け、手伝いなどをやろうとしたりする	恥ずかしいという思いから、自分から挨拶をすることができず、挨拶を返すこともできない子もいた。挨拶がどうして大事なのか等子ども達に話をし、保育者が子どもの名前を言いつつ挨拶をしていった。遊びの後の片付け等、最後までしっかりやる子もいる。そういった姿を認めていきながら、子どもたちには「任せてもらえる」という経験を積んでいけるようにしていく	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や園だけでは難しい、家庭にも発信していくことが大切</li> <li>周りがやっている姿を見せ、挨拶の大切さや必要性に少しずつ気づいたり知ったりしていくことができる</li> <li>挨拶1つでも内面が見えてくる、学校では職員に表情をよく見ようと伝えている</li> </ul>	年長児には当番活動などから、任せてもらえる、役に立っているという経験が自信につながるようにしていきたい。散歩などで近所に出掛けたり時には、保育者自ら挨拶をするなどし、子ども達も自分から挨拶や返事ができるようにしていく。異年齢での活動を多く取り入れ、他の学年への思いやりや、憧れなど日頃の生活や遊びの中で身につけていけるように意識していく

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	個々の発達や経験の差を職員間で共通理解し個々に応じた教育・保育を行っている	一人一人の子どもの姿を積極的に発信し、情報共有することで様々な角度から子どもの育ちを捉えることができた。自分一人の視点ではなく、多方面から見ることが大切であると改めて感じた。個々の情報共有はできているが、手立てや対応の把握が難しい時もあったため、今後も「発信」「共有」を意識して行っていきたい。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報共有」「様々な角度から子どもの育ちを捉える」、この部分は小島こども園の強みである</li> <li>職員の意識と目と実践が素晴らしい</li> <li>保護者の理解と安心と教員が保護者の評価にもつながっている</li> </ul>	今年度は年中児8名のみだったため、情報の共有、共通理解がしやすかった。来年度は年少児11名が入園するため、一人一人に対しての手立てや対応を把握できるよう発信や共有の場を意図的に作っていききたい
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の気持ちを温かく受け止めたり生活の仕方やリズムに配慮したりして園生活が送れるように心がけている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「受け止め」「寄り添い」があるからこそ、子ども達や保護者の安心が生まれている</li> <li>保護者の評価には、園での生活に対する満足感と感謝の気持ちが表れているように思う</li> <li>子ども達が伸び伸びし、楽しそうに笑顔で過ごしている</li> </ul>	一人一人の「今」に目を向け、受け止めたり、寄り添ったりしていく。それぞれ生活リズムや家庭の背景は異なるため、安心して園での生活や遊びを楽しむことができるように配慮し支えていきたい
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの思いや遊びが楽しくなるような環境(遊具・教材)を毎日の遊びから振り返り工夫し準備している	自分のやりたい遊びを繰り返し楽しんだり、「明日もやりたい」と遊びのつながりや遊びへの期待がもてるようになってきた。少しずつ遊びの場も継続できているが、遊び出しの環境や再構成のタイミングは今後も意識して行っていきたい。子ども達の思いが「ワクワク」するような環境作りを目指して日々の振り返りも大切にしていきたい。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ワクワクするような環境作り」、このことは、子ども達の姿から伝わってくる</li> <li>「自分の」「自分の」「自分で」の「やりたい」がある</li> <li>低学年の担任の先生には小島こども園の環境を見て、参考にしていけると良いです</li> </ul>
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害や事故について想定した訓練を実施し、その時々的確に行動出来るよう安全や事故防止への意識を高めている	様々な想定した訓練を毎月行うことで、職員の動きを確認し、状況に応じた避難ができるよう取り組んだ。子どもは、保育者の指示を聞いて、命を守るための行動がわかり、真剣に参加する姿があった。さらに運番時など、職員が少ない時間帯の訓練も計画していきたい。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し行うことが大事、それを実践している</li> <li>土砂災害警戒区域にあるこども園、小学校は、いざという時の判断や指示、行動を大人も子どもも「自分ごと」と捉え、「命を守る行動」につながる、とれるように今後も努めていきたい</li> </ul>	運番時の訓練など、職員が少ない時間帯の訓練も計画していくことで、職員で連携し、様々な状況下でも的確に判断できるよう取り組んでいく。引き続き、子ども達には自分の命は自分で守る意識づけをしていく。
		(1)健康教育の充実	起床・睡眠の時間が安定し、また食の大切さがわかり食べることを楽しむなど「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身につくように発信している	毎月の食育の日をきっかけにして、規則正しい生活をする必要性や食に対して興味関心をもてるような機会を設けるようにしてきた。また、小島小学校の養護教諭に健康教育について話をしてもらうことで基本的な生活習慣について目を向けることのできる機会になっている。園で行っていることを保護者に対して積極的に発信していく場をつくりたい。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食育の日」を定め、園として、様々な取組を進めていると思う。その中で家庭との連携、啓発、情報発信が大切だと思う。</li> <li>家庭への地道な発信、啓発を学校も続けていきたい</li> <li>発信はとてもありがたい</li> </ul>
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達や個性を十分に理解し、適切な実践を行うとともに、職員間で共通理解をし保育を行っている	毎日の振り返りで子どもの姿を話し合い、成長した姿や支援が必要な場面を職員間で共有してきたことで、個に対して共通の関わりができるようになった。引き続き、家庭とも連携をしながら、そのときの個の姿に合わせた具体的な手立てを考えていきたい。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>個の発達を捉え、個性の理解のもと、適切な支援と職員間の共有がされている</li> <li>どの子も支援が必要などころがある</li> <li>職員間だけでなく、家庭とも共有し、支援できていることは理想</li> </ul>	子どもの姿を伝え合える場や共通認識をすることのできる場を設けていくようにする。また職員間だけでなく、家庭とも共有をしたり連携をとりながら、園と家庭が一体となって支援していくことができるようにしていく。
		(1)組織体制の充実	全職員が自分の分掌や役割に責任を持ち、計画的に進めると共に連携を取り合いながら円滑な運営となるように取り組んでいる	自分の役割や分掌を把握し、計画的に進めることができるようになってきた。年間計画を確認しながら早めに考えたり、相談したりしていくことで、様々なアイデアやアドバイスをもらうことができ、行事や活動がより良いものになっていった。情報共有が遅くなってしまいうこともあったため、連絡をこまめにとっていくことを心がけたい。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>少ない職員の中で一人が抱える分掌、業務が多い中、職員がつながり、協力し合い、のりしるをもって協働している、そんな様子が伺える</li> <li>保護者の高い評価は、園と園の職員の事情をよく分かってくれている上での評価だと思う</li> </ul>
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマ『「やりたい!」の思いから「もっと!」につながるための援助と工夫』を意識し、毎日手立てから振り返りを行いながら園内研修を進めている	研修テーマに基づき、毎日保育の振り返りを実施し子どもの姿を共有した。保育者が子どもの姿を捉えて環境を作ったり関わったりしたことで、「やりたい!」の思いをもって遊ぶ姿が増えてきたが、振り返り以外の園内研修を計画的・継続的に行う点に課題がある。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開保育をしてくださったり、小学校の公開授業を参観してくださったり、教員の学びを充実させていたと思う。組織として、研修を進めていたのではないかと</li> <li>成果は出る、改善点も出る、でも評価となると難しい</li> </ul>	日々の振り返り、研修での学びを深めていくことができるように計画的に研修を行っていく。子どもと共に保育者もワクワクしながら保育を実践できるように職員間で子どもの姿を共有し、環境を整えていく
		(1)教育・保育環境の充実	豊かな体験が実現できるように教材研究を行ったり、園内の遊具や教材・教具、自然物など活用できるように環境づくりを行ったりしている	行事や経験したことを遊びに取り入れて楽しめる環境を用意したり、季節の自然物、身近な自然物を使って遊べる環境を用意したりした。行事の経験が遊びにつながり、興味関心が深まったり、自然物を通して、匂いや色など五感で楽しんだりする姿があった。園内の物を保育に活かしたり、職員間でアイデアを出し合ったりして実践に繋げていきたい。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境が整っている</li> <li>「遊び」を大切に環境づくりがされている</li> <li>手作りのものが多く見られ、温かな雰囲気や居心地のよさを感じる</li> </ul>
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園での様子や遊びの様子を口頭で伝えたり、クラスだよりやドキュメンテーションを配信したりし、保護者の思いを受け止めながら子どもの育ちを共有している	登降園時に保護者の方と直接会ったり、話をしたりすることができると、園での様子や遊びの様子をその都度伝えることができた。また、コドモンでの配信も毎日継続して行っている。今後も一人一人の姿や育ちを丁寧に伝えていくことを大切にしたい。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の評価からも園と家庭の連携は、十分取り組んでいると思う</li> <li>「毎日のコドモンの配信」「園での様子、園児の様子」の伝達」は、理解を得やすい</li> </ul>	登降園時に保護者と直接話ができることは小島こども園ならではの強みと思う。コドモンで保護者へ日々配信を行っていくと共に、コミュニケーションも大切に、共に子ども達を育てていくための良い相談者や理解者になることができるようにしていく
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校や園との交流を行い、園児、児童、職員とのつながりを深めている	近隣校・近隣園との交流を通して年上児に対して憧れの気持ちをもつ姿があった。今後も交流を継続し、関われる機会を大切にしていきたい。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園と学校の交流がとても活発で豊富。充実感がある。改めてこれだけたくさん交流をしている園はないのではないか。園と小学校の接続のスムーズさは、日々の交流活動の賜物と強く感じている</li> </ul>
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	様々な体験を通して地域の人や自然、文化に触れる機会をもち「小島が好きの子」を育てている	散歩や地域交流(S型サービス)を通して、地域の方々と話をしたり、触れ合ったりする機会を大切にできた。地域の方々に親しみをもったり、小島地区について知ったりする姿が増えてきているため、今後も積極的に地域交流を行っていききたい。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互い関わることで良い効果がある</li> <li>地域との連携は、開かれた園づくりにおいて、欠かせない。地域と園の互いの交流は、子どもの学びや成長につながるのみならず、地域の活性化や元気につながる</li> </ul>	積極的に散歩に出掛け、小島地区の自然や文化に触れていく。保育者自身も小島地区について知り、魅力を子ども達に伝えていくようにしていく